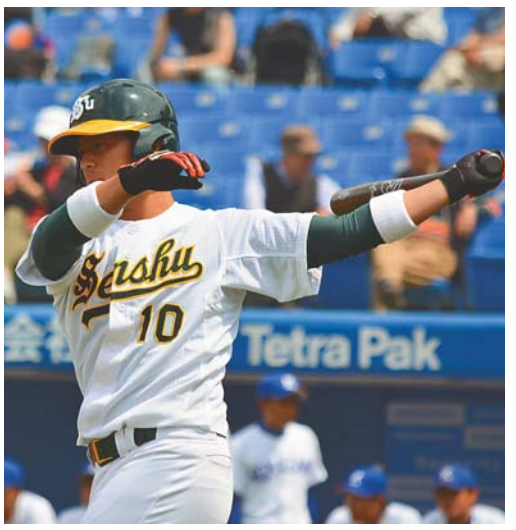
専大スポーツ
No.350
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/) でも大会結果を配信しています

▶ 先発の一角を担う堀田＝撮影・新井


◀ 勝負強さを発揮する渡辺＝撮影・齊藤麻莉奈

東都大学野球春季リーグ戦は終盤に入り、優勝争いが熱を帯びている。4季ぶりに1部に復帰した専大は4校との対戦を終え6勝2敗・勝ち点3。第6週終了時点で中大と同率首位の見事な戦いぶりだ。優勝の行方は第7週以降にもつれこみ、専大（対拓大）、中大（対亜大）の結果次第では、最終週に試合のある國學大にも優勝の可能性が残る。

専大が32回目の1部優勝を飾れば、1989年春季以来、26年・52季ぶりとなる。

野球・東都大学春季リーグ戦

白熱の優勝争い

56年ぶり開幕６連勝

もはや勢いだけではないその戦いは、彼らの力強さを証明するのに十分だった。開幕戦で中大から勝ち点をあげた野球部は、4月15、16日に亜大と対戦。2試合とも1点差の試合となったが、連勝で勝ち点を得た。

続く駒大1回戦（4月28日）は、2回に5番・渡辺和哉（経営4・文星芸大附高）のホームランで先制。中盤に逆転され、今季初めてリードを許す展開になるも焦りはなかった。9回、7番・福田晃規（商4・県岐阜商高）の起死回生のホームランで同点とし、延長10回に齋藤正直監督から「お前が決めてこい」と送り出された渡辺のサヨナラ打で試合にケリをつけた。翌日の試合も勝利し、56年ぶりの開幕6連勝。89年春季以来のリーグ戦優勝も現実味を帯びてきた。

今年のチームは昨年のレギュラーが多く残る「打」のチーム。どこからでも点が取れることが強みだ。中でも4番・濱田竜之祐（商4・鹿児島実高）と5番・渡辺の存在が際立つ。4割近い打率を残す濱田は長打だけでなく、時にはつなぎ役としてチャンスを広げる。渡辺の3本塁打、10打点はリーグトップ（5月11日現在）。相手の失投を一振りで仕留める打力はまさに脅威だ。

投手陣では、先発は大野亨輔（商4・星稜高）と今春頭角を現した堀田竜也（経営2・常葉菊川高）の2人が中心。後ろには7月のユニバーシアード大会日本代表に選ばれた高橋礼（商2・専大松戸高）らが控える。

5月5日、6日の國學大戦は連敗を喫し、今季初めて勝ち点を落としたが、齋藤監督が「ぎりぎりの厳しい戦いは選手を成長させてくれる。この敗戦は選手たちの糧になる」と言えば、高原悠主将（商4・報徳学園高）も「一つ一つ集中して戦っていく」と次の戦いを見据える。

「一戦必勝」。その戦いぶりをもう「古豪専修」とは言わせない。

（新井健太郎・文3）

▲ 河名は得意の投げ技で大会を制した

レスリング・ＪＯＣ杯 ジュニアオリンピックカップ

グレコ 60kg 河名が優勝 55kg 桑山は準優勝

レスリングのＪＯＣ杯ジュニアオリンピックカップが4月25、26の両日、横浜文化体育館で行われた。グレコローマンスタイル60kg級で河名真寿斗（文3・三次高）が優勝、同55kg級で桑山裕貴（商1・中津商高）が準優勝に輝いた。

この結果、河名が世界ジュニア選手権（8月、ブラジル・レシフェ）の出場権を獲得。桑山はアジアジュニア選手権（7月、ミャンマー・ネピドー）への出場を決めた。

河名は初戦から2試合を、開始わずか1分で決着をつける。準決勝は、後輩・松井涼（商2・岐阜工高）との専大対決となるも先輩の意地を見せた。

決勝戦は、先にポイントを取られ苦戦したが、持ち味の投げ技などで6点を奪う。「最後は情けない試合をしてしまった」と反省したが、6―3で自身初タイトルを獲得した。「この優勝は価値がある。新たな感覚を得られた」と語った。

桑山は準決勝をフォール勝ちで突破。第1シードの難波（青学大）との決勝は譲らぬ接戦となるも、第2ピリオドで失点し、0―4で敗れた。「持てる力は出せたが、攻撃の種類を増やさないといけない」と課題を挙げた。

また、グレコ60kg級で松井、同74kg級で武田光司（経営2・埼玉栄高）、フリースタイル60kgで中村倫也（商3・花咲徳栄高）、同74kg級で松尾侑亮（商2・いなべ総合学園高）がそれぞれ3位となった。（岡野希春・経済3＝写真も）

Zoom-up

バレーボール部 藤中 謙也（経営４）

山口県宇部商業高／身長190cm／体重82kg／ポジション＝ウイングスパイカー

ディフェンス力で「龍神」メンバー

2015年度全日本男子チーム「龍神NIPPON」のメンバー30人が発表され、藤中謙也と、卒業生の栗山雅史さん（平23商＝サントリーサンバーズ）が選出された。現役部員の全日本入りは佐々木太一さん（平6商＝サントリーホールディングス）以来となる。

藤中は1年次から主力として活躍し、専大初の全日本大学男子選手権ベスト4に貢献。また、アジアジュニア男子選手権日本代表に1、2年次連続で選出され、1年次には優勝の原動力となった。昨年は東日本大学選手権初優勝の立役者となり、最優秀選手賞を獲得。秋季関東大学リーグ戦ではチームを2位に導いた。最大の武器は力強いスパイクだが、サーブレシーブも得意としていて、まさに攻守の要。昨年はシーズン途中からキャプテンに任命され、リーダーシップを発揮し、今年もチームを引っ張っている。

藤中は「全日本代表に選ばれたが、まだまだだと思っている。代表合宿に参加し、オフェンス面で足りない部分があると感じた。海外の選手を相手に点を取る手段を見つけていく。常に〝日本代表〟として見られていることを自覚してリーグ戦でもプレーし、結果を残していきたい」と語った。

吉岡達仁監督は「190㌢台の選手の中では、飛び抜けたディフェンス力とブロック力を持っている。東京五輪に出場してほしいが、リオ五輪にも出場チャンスがある。招集されれば、ディフェンス力を買われ、リベロとして起用されるのではないか」と期待。

「龍神NIPPON」は5～7月に行われるFIVBワールドリーグ2015に参戦。チェコ、フランス、韓国とホーム&アウェーで対戦する。7月末からはアジア男子選手権、9月からはFIVBワールドカップ2015に出場する。

（阿部理志・文3）

8度目の防衛

WBC世界バンタム級 OBの山中さん

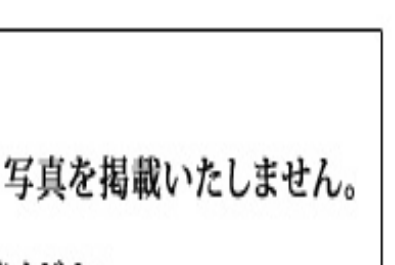
ボクシングのWBC世界バンタム級タイトルマッチ12回戦（4月16日、大阪府立体育会館）で、OBのチャンピオン・山中慎介さん（平17商＝帝拳ジム）が、同級7位のディエゴ・サンティリャン選手（アルゼンチン）にKO勝ちし、8度目の防衛に成功した。

4ラウンドまでチャンピオンが4点リード。その後は一方的な試合展開で、6ラウンドに左ストレートでダウンを奪う。7ラウンド36秒、強烈な左ストレートで倒した。

8連続防衛は、国内男子世界王者として亀田興毅氏（WBAバンタム級）と徳山昌守氏（WBCスーパーフライ級）に並ぶ5位タイで、具志堅用高氏（WBAライトフライ級）の持つ日本記録の13回に一歩近づいた。

さらなる高みへ――。チャンピオンの活躍に今後も目が離せない。

（千葉ますみ・商2）


◀ 8度目の防衛を果たし、観客の声援に応える山中さん＝大阪府立体育会館（写真：共同通信社）

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。